

泌尿器科 部長  
野澤 昌弘  
(のぞわ まさひろ)



本年1月に大阪南医療センター泌尿器科に赴任しました野澤です。私はこれまで、阪大病院や関連病院での勤務の後、昨年まで、近大病院にて診療・研究・教育に従事して参りました。これまでの経験を活かし、患者さんに満足していただける質の高い医療を提供できるよう、精一杯、頑張りたいと思いますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

緩和ケア内科 医長  
川村 知裕  
(かわむら ともひろ)



本年1月に緩和ケア内科に赴任致しました。元々呼吸器外科医でしたが6年前に転向し、淀川キリスト教病院で専門的緩和ケアを5年間学びました。地域の皆様方が、病気があっても穏やかに過ごせるようにお世話させていただきたいと思えます。また南河内地域の緩和ケア拡充にも尽力致したいと考えております。よろしくお願い致します。

小児科 医師  
長井 恵  
(ながい めぐみ)



本年1月より大阪南医療センター小児科で勤務しております長井です。私はこれまで近畿大学病院で主に小児アレルギー診療を中心に診療して参りました。当院は3か月と短い期間になりますが、少しでも多くの子どものお役に立てればと思います。よろしくお願い致します。

# MINAMI MADO

2024.2. No.42



独立行政法人 国立病院機構  
大阪南医療センター

## 大阪南医療センター 循環器疾患センター



胸背部痛、呼吸困難、動悸等循環器疾患が疑われる際には緊急対応連絡先へご連絡ください。

24時間緊急対応 (ハートコール)

直通 TEL : 0721-53-3200



Instagramはこちら ▶



LINEはこちら ▶

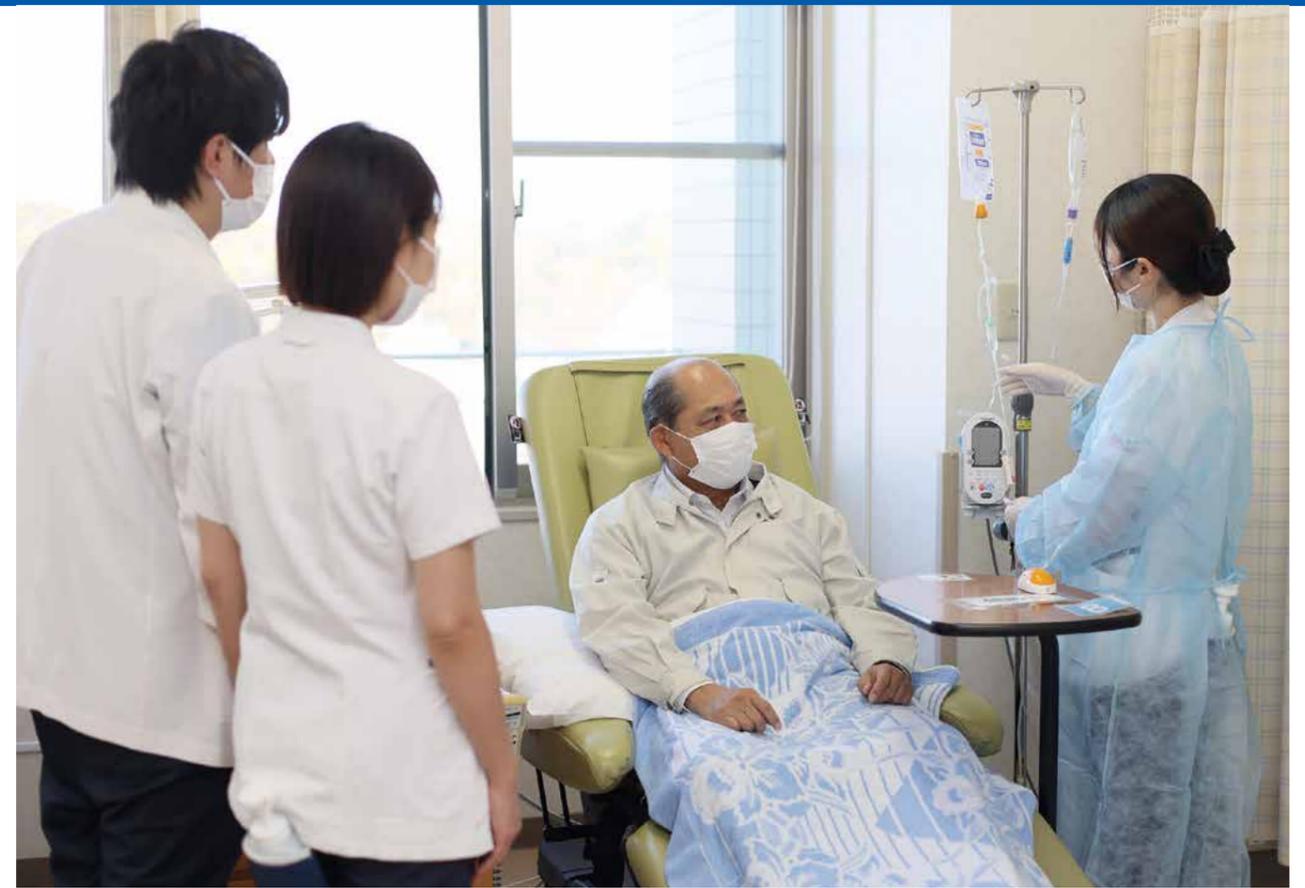




## 患者さん一人ひとりに合わせた 最善のがん薬物療法を

当院では入院、外来の両方でがん薬物療法を実施しています。すべてのがん種において、腫瘍内科、血液内科、外科、乳腺外科、消化器科等が共同し、横断的に適切な薬物療法を行っています。

また、当院は免疫異常の専門医がいる病院であり、関節リウマチを中心に免疫異常に合併したがん患者さんも多く対応しています。近年、免疫チェックポイント阻害薬が使用可能となり、治療成績はどのがん種も大きく改善してきていますが、その一方で薬剤による有害事象も多様化しています。当院ではそのような合併症を持つ患者さんにおいても専門医と協力し、リスクをなるべく軽減した薬物治療を提供しています。



## 治療中の悩みを和らげる 外見ケア(アピアランスケア)

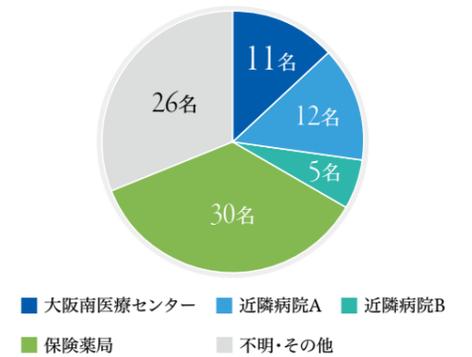
がん治療を続けていると、髪、爪、肌などの外見に変化が現れます。患者さん自身が気にならなければ問題はありますが、自分らしくいたい、周りの人の視線が気になる、などの悩みを持たれる方のために、外見ケアを実施しています。患者さん向けには毎月第4金曜日に「外見ケア相談会」を開き、ウィッグや、ネイル、スキンケア用品の紹介など、気軽にお立ち寄りいただける体制を整えています。職員向けにも「外見ケア勉強会」を実施し、がん患者さんが日々の生活の中で感じる悩みを知る、実際にウィッグを着用してみるなどの機会を設けています。



## がん薬物療法サポートチームの活躍

昨年9月より、専門資格をもつ医師、看護師、薬剤師からなるがん薬物療法サポートチームが始動しています。irAE(免疫関連有害事象)を含めた副作用コントロールの対応について、専門的な観点で介入、アドバイスを行い、当院内における薬物療法のサポートをしています。また、医療関係者向けに勉強会を開催し、薬物療法に関する実際の症例の共有、解説をしています。12月に行われた勉強会では、全体の参加者106名のうちWEBからの参加者が84名、そのうち30名は地域の保険薬局の方であることがわかっています。また、全体のうち45名が薬剤師であり、薬物療法への関心の高さと、勉強の機会の必要性を感じました。今後も院内外問わず、薬物療法に関する様々な場面でサポートをしていきます。

勉強会のWEB参加者 内訳



勉強会参加者の職種 内訳

